

◆ “花好き・自然好き市民交流サロン” 分科会の活動方針を考える (H19.08.23 サロン事務局)

		(仮称)「まちなかの花や緑の創造」分科会		(仮称)「樹林・棚田など自然系の緑の保全」分科会		
活動の目標は	<p>◎『花苗交付制度』『花と緑のまちづくりコンテスト制度』の改善のあり方を市民の立場で考える。</p> <p>※市の思いでは、上記2つの制度の改善に関するサロンの考え方について、おおむね10月中旬に意見をまとめていただけたらとのことです。</p>		<p>●2つの制度は、「多くの市民の目にふれる場での花のまちづくり」「花づくり技術の向上」をめざして、市民と市が長年にわたり取り組んできた制度です。</p>	<p>◎『樹林・棚田バンク制度』など、自然系の緑の保全と活動を支援する制度のあり方を市民の立場で考える。</p> <p>※市は、「樹林・棚田など自然系の緑の保全と活用」に関する支援制度は、来年度以降の運用となるとの考え方のようです。当分科会では、調査・検討の方法論から、じっくりと議論を始める必要があります。</p>		
	<p>●2つの制度は、多様なグループによる、多様な場での花のまちづくりをバックアップすることで、初期の目的は果たしたと考えられます。</p> <p>●次ステップの“まちなかの花や緑の創造”の推進エンジンとなる「新しい支援制度」のヒントをつくり、市に提案することを当分科会の当面の活動目標とします。</p>		<p>●市には「まちなかの花や緑の創造」の制度に比べて、「自然系の緑の保全」の制度はほとんどありません。</p> <p>●身近な『樹林』『杜さん』『棚田』などは、市民にとって重要な歴史・文化・自然資源であるにもかかわらず、一部市民の自主的な保全活動に委ねられている状況です。</p> <p>●市も樹林や棚田の保全活動の支援制度を検討しようとしています。そこで、これに先立ち「樹林・棚田など自然系の緑の保全と活用」に向けた市民の活動のあり方考え、その舞台となる樹林や棚田の実態を確認することを当分科会の当面の活動目標とします。</p>			
提案・検討の水準は	<p>[マイナーチェンジ型提案(例)]</p> <p>◆制度の原型は現状の継続とし、「花苗の提供+α」の要求型</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花苗に適した土の提供も</li> <li>○肥料の提供も</li> <li>○花のお世話をするための器機も</li> <li>○低木や花木も</li> </ul> <p>など</p> <p>↓</p> <p>○今までも花苗の提供型から助成金型に以降し、花苗以外の土、肥料、器具、低木、花木なども助成の対象として購入できるようにならないかな。</p>	<p>この間に色々な提案があると思います</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花と緑のまちづくり認定指導員制度(花と緑のまちづくりマスター制)</li> <li>○多入賞者審査員制度</li> <li>○まちづくり市民活動賞</li> </ul>	<p>[大胆型提案(例)]</p> <p>◆制度の目的が共に“花のまちづくりの促進”なら、一つに統合したら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花苗交付を受けた団体はコンテストに参加を</li> <li>○日常活動の場をコンテスト会場に</li> <li>○経費も2制度×1/2+αで内容の充実に</li> </ul>	<p>第1段階</p> <p>◆“自然系の緑”の意義を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生駒が「緑の住宅都市」と言われる背景を確認しよう。</li> <li>・景観的な「自然系の緑の連なり」が生駒の特徴(生駒山～市街地の樹林～矢田丘陵)</li> </ul>	<p>第2段階</p> <p>◆意義を踏まえ、保全すべき“自然系の緑”を見つけ出そう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「緑の住宅都市」の維持にとって、保全が必要な「緑」の確認が必要。</li> <li>・「花と緑と自然の将来都市構造」の“ラダー(はしご)状の緑”を構成する「緑」はどれか</li> </ul>	<p>第3段階</p> <p>◆市民が楽しく参加できる保全活動の仕組みを考え、実践してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○残したい「緑」を市が買い取ることは無理。何か良い手だては?</li> <li>・信用のおける第三者機関を設立し、期限付きで樹林を預かる。これを『樹林バンク』と呼ぼう!</li> <li>・バンクは樹林の楽しい活用メニューを準備、市民に呼びかけ実践する。</li> <li>・行政は、地主さん、活動市民へのメリットを支援制度として準備する。</li> </ul>
	提案・検討への手順は	<p>事務局の悩み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○花苗交付制度</li> <li>・市民の皆さんのニーズが多様化している中で、花苗の提供だけでいいの?汎用性が必要な</li> </ul> <p>○コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者と入賞者が固定化し、新たな参加者が少ない。</li> <li>・今まで15年実施</li> <li>・経費がかさむ</li> </ul> <p>など</p> <p>↓</p> <p>効果の高い、より良い制度に改善できないかな?</p> <p>目的は花や緑であふれる生駒</p>	<p>○分科会で雑談会を2~3回重ねるだけで、色んなアイデアが出てくると考えられます。</p> <p>*ポストイットにアイデアを残す方法も有効です。</p> <p>○サロン事務局で話し合いの流れを整理します。</p> <p>○分科会の代表を決めて、「緑の市民委員会」に報告(提案)していただくことにします。</p>	<p>現状制度のいいところ、あかんところをまず抽出しよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の使いやすさ(申請、対象物など)</li> <li>・制度の効果</li> <li>・いろんな意見をまず出し合おう!</li> </ul> 	<p>◆「自然系の緑」のイメージをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安田さんが猛暑のなか、写真撮影をしてくれました。(感謝!)</li> <li>○地図と照合しながら「自然系の緑」の議論のイメージがつかめます。</li> <li>○みんなで手分けし、観察点を増やしてイメージを深める必要があるかも知れません。</li> </ul> <p>◎この段階で、どのような「自然系の緑」に着目するべきかの判断が出来ます。[委員会への報告I]</p>	<p>◆「自然系の緑」に関するデータベースがどこまで作れるかが課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○航空写真で「自然系の緑」を確認し、地図上に整理する必要があります。</li> <li>○「緑」を現地で実態を確認し、樹林カルテ(多面的な診断書)を作ると立派なデータベースになります。 *マンパワーと時間が必要です。</li> <li>○「緑」の対象を上げすぎても大変です。『ラダー状の緑』『杜さん』『棚田』に絞り込んだ調査とすることも考えられます。</li> </ul> <p>[委員会への報告II]</p>